

祝 辞

沖縄県知事

西 銘 順 治



このたび、社団法人沖縄県小児保健協会が創立10周年を迎えられるに当たり、心からお喜び申し上げます。

貴協会は、創立当初から母子保健行政に深い御理解を示され、本県の母子保健事業に多大な御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

「健全なる社会の発展は、健全なる小児の育成にしなければならない」という貴協会設立の主旨に沿って、小児保健活動を積極的に展開され、年々事業内容の充実と実績を上げて発展されていることを、高く評価するものであります。

また会員の皆様には、それぞれの領域の専門家として、各地、各施設において重責を果たしつつ、なおかつ協会員として、小児の福祉増進のため御活躍をされておられることに対し、深く敬意を表します。

このように、小児保健関係者の御努力によって、本県の小児保健の水準は著しく向上し、かつて問題のありました乳児死亡率も昭和56年には、全国水準に下げるまでに至っております。

しかし、最近の傾向として、全国的に子供たちの異常行動が問題になっており、心身両面からの健全育成に真剣に取り組まなければならない状況にあります。

申すまでもなく小児は、両親をはじめ家族及び地域社会の影響を強く受けるものであり、複雑化した現代社会を背景とした子供たちの異常行動の要因も、決して単純なものではないと言われており、問題の解決も容易でないと思います。

従いまして各領域の専門家が相互に協力し、両親をはじめ家族及び地域との連携の下に包括的な対処が必要であると考えます。

子供たちを健康で心豊かに育成するため、貴協会の一層の御研鑽と小児保健活動の推進を期待するものであります。

現在、疾病構造の変化、高齢人口の増加に伴って成人病の予防及び老人保健の問題が、社会の関心事となっており、行政においても老人保健法の施行により保健事業の重要課題として、老人保健の推進に努めて居りますが小児保健は住民の健康づくりの出発点であり、生涯の健康管理の基礎として、最も重要であることは申すまでもありません。沖縄県の

次代を担う子供たちの健全育成の見地からも、今後ますます重視しなければならぬと考えております。

今後とも貴協会が「心身ともに健やかで、心豊かな子ども」を育成するために御貢献くださいますとともに、小児保健行政に御協力を賜りますようお願いいたします。

最後に貴協会の限りない御発展と会員各位のますますの御活躍、御健康を祈念いたしまして祝辞といたします。



沖縄県小児保健協会 創立10周年を祝して

日本小児保健協会長

村上 勝美



近年、小児保健の進展はめざましく、行政面はもちろん、一般の認識が高まり、長年に亘る私ども小児保健に携わるものにとっては誠に嬉しいことであります。この面での関心の高まりによって本部協会、支部協会の活動もあたかも風を得た凧のように活気づいて来ております。

本部協会がその前身である日本小児保健研究会として発足して50周年、法人協会として再発足して20周年を迎え、ここに沖縄県小児保健協会創立10周年を迎えられたことは日本の小児保健事業にとって、昭和58年は意義深い年であり、誠に同慶の至りであります。

創立10周年というのは全国的に見て設立が必ずしも早いものではありません。それには戦争と本土復帰の遅れという重大な理由がありました。その発展の速さには眼を見張るものがありました。これはひとえに故仲地前会長はじめ、小児科医を中心とした医師の皆さんの努力と県行政部、保健所の皆さんの絶大な協力の賜物であろうと思ひ、その実情を眼で見た私の感じでは他に類例を見ないものであります。もちろん、これは仲地前会長の卓越した人格と実行力と纏めあげる人柄によることはいふまでもありません。このような優れた教え子をもった私の幸せでもあります。しかし何といても残念なことは沖縄学会を目前に迎えて急逝されたことでありましたが、後を受けられた知念会頭とOrganizing-Committeeの方々の一糸乱れない運営は卓越した企画を生かしました。

この沖縄学会は史上掌って見なかった来会者約2,000名、演題数約280題、外人参加者6名という新記録を樹立したのであり、その企画、運営は並々ならぬ努力があったのであろうと察しまして、本部協会長として心から感謝の意を表します。

考えますに、沖縄県における小児保健の推進は種々の困難があったことでしょう。その①は戦争による高度に荒廃した国土、②長い占領下、③数多い離島、④公衆衛生問題山積の中での小児保健事業、⑤manpowerの結集など、どの一つをとっても難問が想像されます。それらの難問を克服して今日の成果を得られたのは偏りに小児科グループを中心とする行政関係者、保健婦のmanpowerの力の結集と、本部からの船川、平山、高野、沢田の諸氏の定期的な熱心な指導、協力が測面的効果に役立った

ことと信じ、これらのすべてが県民の強い絆を作ったものと考えられます。

今や世の中はmedical Cure (治療)からhealth care (保健)へと理論的、実践的に移行しつつあります。これによって個人に対してはより幸福な生活、社会的には経済的メリットを齎らすものと信じられます。今後の小児保健はlife cycleの出発点として生の尊厳という哲学的命題の他に、変遷する社会に適応する経済性意識をもつ方向に向っています。

「小児とは何であるか」という哲学的命題は別として、私は小児は、Ability (生きる能力)、Activity (活動能力)、Adaptability (適応能力)を健康のしるしと考えています。このことは身体的、精神的にも当てはまることであり、小児保健、内面的精神保健の主要目標となるものと思っています。

今まで多くの支部活動を見て来ておりますが、組織の広さ、強さの点では沖縄県は他に抜き出ているという印象を受けています。活動の実態が情報として広く伝えられることは各地の支部活動に一つのimpulseを与えるのでありと信じています。

(社)沖縄県小児保健協会の創立10周年記念に当りまして、本部協会役員ともに会員を代表して心からお祝辞を申し上げ、今後の益々のご発展を祈ります。

昭和58年7月

祝 辞

沖縄県市長会長

桑 江 朝 幸



社団法人沖縄県小児保健協会の創立10周年記念誌を発刊されるにあたり、沖縄県市長会を代表いたしましてご祝辞を申し上げます。かえりみますと、祖国復帰の喜びを分ち合った翌年の昭和48年7月28日、関係者のご努力によって沖縄県小児保健協会が発足し、意義深いその活躍の第一歩を踏み出しました。

復帰直後のわが県の状態は、各界とも本土との格差が大きく、もちろん医療面もその例外ではなく劣悪な条件下にありました。そのため第一次沖縄振興開発計画では、各面の格差の是正を最も大きな柱と据えて取り組んでまいったのは申し上げるまでもありません。

このような状況下で、志を同じくする200人余の方々が本協会に参加活動を開始され、同年11月には県の委託事業として県内5700人余の乳児に対し、土・日曜日を利用しての奉仕的な乳児健診を実施され、社会的な反響を呼びました。

以来毎年乳児健診事業を実施されるとともに、沖縄県小児保健学会を開催され、特別講演者による講演と多くの会員研究員による一般講演や、研究成果の発表の機会を設けて会員相互の資質向上に役立たせ、また機関誌の発刊によりこれら貴重な資料を誌上に掲載される等、目覚ましい活動を続けておられることに対し、会長をおはじめ各役職員・会員の皆様に心からなる敬意を表し、讃辞をお贈り申し上げます。

このような協会を挙げてのご精進の結果、昭和56年に当初の協会を発展的に解散され、昭和57年3月に面目を一新し社団法人沖縄県小児保健協会を設立今日に至っておりますことは、まことにご同慶の極みであります。

本協会の発展を象徴するかのようには昨年が第29回日本小児保健学会が那覇市で開催され、大成功のうちに終了したことは当然の結果だと思えます。

これまで毎年各地で行われている乳児健診は、常に好評で受診児の数は昭和56年度には発足当初の約4倍にも達しているとのことであり、乳児の健康保持、母親等への啓蒙等図り知れない効果をあげてこられたものと思えます。また学術研究のため少い予算の中から毎年相当額の調査

研究費を確保される等、県民のために精一ぱいの努力を継続しておられることに對し市長会として感謝申し上げ、私ども地方行政をあづかる者として、今後とも能う限り皆様方にご協力させていただくべく決意するものであります。

私達は、本協会が沖繩方式と呼ばれる独特の運営方式を加味されつゝ、その効果を一段と高めておられることを誇りとし、本協会が今後ますます充実発展され、他の関係機関団体等との連けいを密にされつゝ、小児保健増進のためにご尽力下さるよう祈念いたしまして祝辞といたします。

昭和58年7月

祝 辞

沖縄県町村会長

並 里 安 博



このたび、沖縄県小児保健協会が創立10周年を迎え、長年にわたる活動の内容等を収録した記念誌が発行される運びとなりましたことを心からお慶び申し上げます。

まず、小児保健事業に携わる関係各位におかれましては、今日まで幾多の困難があつたにもかかわらず、小児保健活動の推進向上のため、心魂を傾けて尽力してこられました。私はこの機会に、そのご労苦に対しまして、心から感謝の意を表する次第であります。

さて、最近における社会経済情勢の変化に伴い、地域社会をとりまく環境も著しく変ぼうし、住民が快適かつ安全な環境のもとで、真に健康で文化的な生活を享受することのできるような社会形成が強く望まれているところであります。

地方公共団体の行政は、究極的には、すべて住民の福祉の向上を目的としているわけではありますが、そのためには、個々の住民がそれぞれ健康であるということが、まず何よりの前提でありまして、それも、単に病気でないというような消極的な意味にとどまらず、さらに積極的に、よりよき健康への努力が常になされているものでなければなりません。

また、地域住民が、それぞれ各自の健康の保持、増進をはかることはもとより重要なことでありますが、これが真に実効をあげうるためには、より広い見地に立った方策と、住民の自発的な協力が必要であります。

特に、幼児期の健康管理は、家庭を基盤とした生活状況の中において、母親のかかわりで影響されてくるものと考えられ、また、幼児期の基本的生活行動自立の問題は、幼児の基本的健康生活の問題として、社会生活の適応に重要な意義をもつといわれております。

私ども地方行政を担当する者といたしましても、生活環境、社会環境整備の充実を図ることはもとより、関係者並びに関係機関と相たずさえて、小児保健事業のための諸施策を従前にもまして推進し、当面する諸問題の解決のため、今後なお一層努力いたす所存であります。

沖縄県小児保健協会におかれましては、創立以来、乳幼児の健康管理を目的に乳児一般健康診査を実施するとともに、小児の健康に関する調査研究等を行い、本県の小児保健活動の推進向上に大きな役割を果たし

ておられますことは、まことにご同慶にたえません。関係各位に対しまして心から敬意を表すものであります

ますます複雑多様化している現在の社会情勢下における小児保健事業の重要性は、いまさら申し上げるまでもございせんが、関係各位におかれましては、小児保健事業の推進のため、さらにご努力を傾注していただきたいと願ひいたす次第であります。

終わりに、本協会の限りないご発展と関係各位のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

沖縄県医師会長

大 浜 方 栄



このたび沖縄県小児保健協会が創立10周年を迎えられるにあたり、お祝いの言葉を申し述べますことを光栄に存じます。

我が国の産業経済の発達は、社会構造と生活環境に変化をもたらしました。それは国民生活を便利で豊かなものにした反面、国民の健康保持増進を阻害する要因ともなっております。その主なものに大気汚染、食品添加物の乱用、加工食品の氾乱などがあげられます。このような生活環境のもとで、基礎育児知識に乏しい母親たちは、過剰な育児情報の前に狼狽し、適正情報の選択能力を失い、安易な人工粉乳、人工離乳食、あるいはインスタント食品に対する依存度を増長しております。沖縄とて例外ではありません。

また、戦前、戦後を通じて経済的には決して豊かでなかった沖縄は、第二次世界大戦後、四半世紀にわたって、日本本土から地理的に、政治的に分離され、米軍統治下にあったため、あらゆる面で本土との間に大きな格差を生じておりました。そのため、祖国復帰当時の本県の医療基盤は脆弱で、公衆衛生事業、母子保健対策の遅れは著しいものでありました。

このような状況のもとで、沖縄県小児保健協会は、母子保健法第3条の精神にもとづいて、小児保健活動を展開し、小児の健康増進に資することを目的として、昭和48年7月設立されました。

爾来10年、組織の強化をはかると共に、時代の変遷に伴う種々の困難を克服し、強力な小児保健事業の推進によって、疾病の早期発見、早期治療及び母子の保健指導に尽力してこられました。かくて、昭和56年度までの受診児数は、157,000人にもものぼり、今日の輝かしい成果を修めておられます。私はここに、小児保健協会の設立に尽力された当時の小児科医会の役員の方々の先見性と英断並びに小児保健事業の推進拡大に日夜努力してこられた知念正雄会長をはじめ、歴代役員、関係各位の永年のご労苦に深甚の敬意を表する次第であります。

沖縄県小児保健協会創立10周年にあたり、温故知新の心をもって記念誌を発行し、未来への展望の糧とすることは、誠に時宜を得たことと思えます。

終りに臨み、沖縄県小児保健協会のますますのご発展と、会員皆様のご健勝を心から祈念して、祝辞と致します。